

平成 28 年度放射線安全取扱部会年次大会 (第 57 回放射線管理研修会) アンケート調査のまとめ

平成 28 年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会

平成 28 年 11 月 10 日 (木)、11 日 (金) の 2 日間にわたり、平成 28 年度放射線安全取扱部会年次大会が鎌倉芸術館 (鎌倉市) で開催された。年次大会実行委員会では、参加者の動向を把握し、今後の部会活動や大会運営の充実を図るため、毎年アンケート調査を実施している。今回は、参加者総数 393 名のうち 123 名から回答を得たので (回答率 31.3%)、以下に報告する。

1 年次大会について

今大会の企画全般 (イベント構成、会場、時期等) と各プログラムについて、5 段階 (5 点 = 良い, 1 点 = 悪い) の評価と感想・コメントの記載をお願いした。図 1 に各プログラムの評価点 (平均点) を、図 2 に評価点の割合を示す。

イベント構成の評価点は 3.8 と、全体として良いという評価であった。「大変有意義な内容だった」、「勉強になった」と評価する意見がある一方で、「新人でも興味が持てるトピックスがほしい」という意見や、密封のみ取り扱う事業者から「密封線源があまり取り上げられることが無いので考慮頂きたい」などのコメントが寄せられた。

その他、大会運営に関して「事前申し込みの時期を長くしてほしい」、「開催地や期日を早く周知してほしい」、「対応するクレジットカードの種類を増やしてほしい」などの登録手続きに対する要望、Wi-Fi 設置などインターネット環境に関する要望があった。また、プログラム進行が予定より遅れたことなど、運営側として反省すべき点も指摘された。

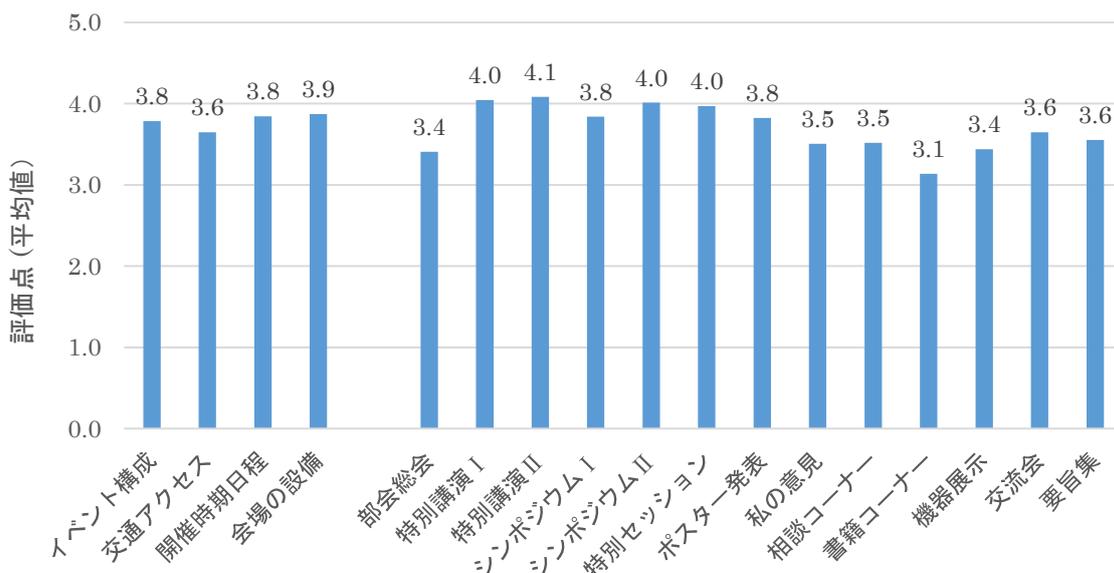


図 1 年次大会全般・各プログラムの評価点

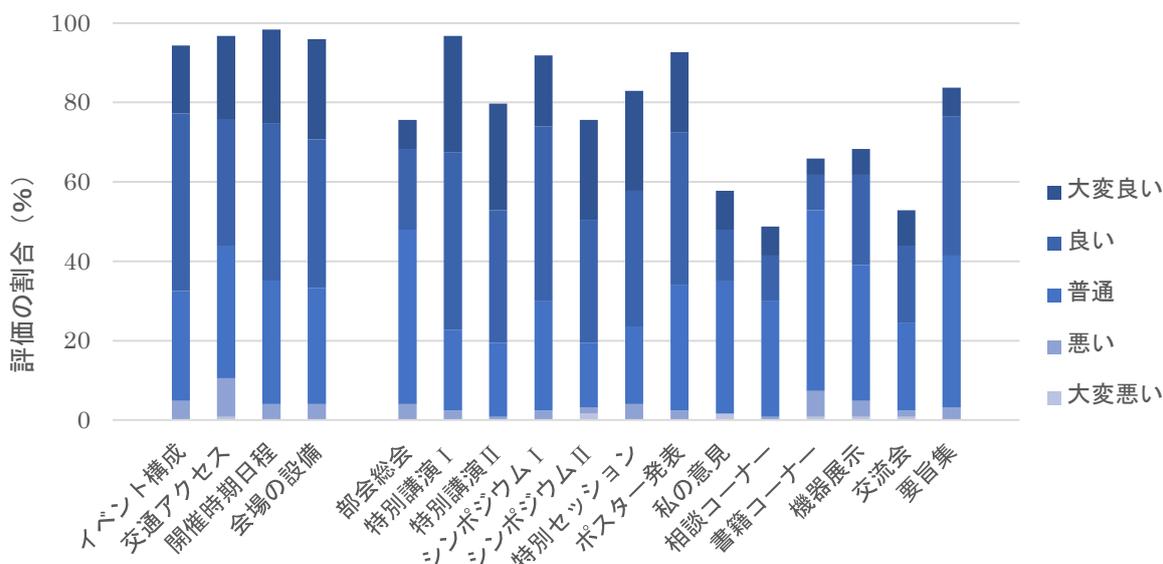


図2 年次大会全般・各プログラムの評価の割合（回答者全員に対する割合）

1-1 部会総会

プログラムの中で回答率が比較的低く、さらに評価点も 3.4 と低めであった。初日の午前中という参加しにくい時間帯に設定されたことに加えて、内容に新鮮さが感じられなかったことが原因と思われる。部会総会は例年評価が低く、セレモニー的な内容に終始するのではなく、より会員の興味を引くような企画が求められている。

1-2 特別講演Ⅰ 「放射線安全管理行政の動向」

原子力規制庁の核物質・放射線総括審議官より、放射線管理行政の動向や法令改正の検討状況について解説していただいた。回答率が高く、多くの人が関心を持って参加したことがうかがえた。また、評価点も 4.0 と高く、「規制庁の講演を聴けて良かった」、「規制の動向、法解釈について今後も紹介してほしい」という肯定的なコメントが多かった。

1-3 特別講演Ⅱ 「113 番新元素（ニホニウム）の発見」

日本が初めて命名権を獲得した新元素ニホニウムの発見の経緯や研究分野の動向について、研究グループから紹介していただいた。話題性の高い内容を分かりやすく解説いただいたこともあり、評価点は 4.1 と高かった。なお、本特別講演は、シンポジウムⅡ、特別セッションとともに一般にも公開した。事前に会場のホームページや地元の教育委員会・病院関係者などを通して周知を図ったが、残念ながら一般の参加者は少なかった。宣伝媒体や開催時間帯などに、さらなる工夫が必要である。

1-4 シンポジウムⅠ 「放射線利用の品質保証制度導入に向けて」～放射線施設における安全文化の醸成に関するこれからの活動について意見交換しよう～

現在、安全文化・品質保証制度の法令への取り入れに向けた準備が日本アイソトープ協会で行われていることから、その概要と検討状況について紹介していただき、さらにパネル討論を行った。評価点も比較的高く、放射線安全文化の醸成や品質保証制度の確立を歓迎するコメントが複数寄せられた。

1-5 シンポジウムⅡ 「最先端のガン治療と研究」

最先端のガン治療法や、福島での放射線に関するリスクコミュニケーションの現状などについて解説

していただいた。「中川先生の講演がとてもよかった」など、内容に関しては高い評価がある一方で、「シンポジウムのタイトルと内容がマッチしていない」という指摘もあった。評価点は4.0と高かった。

1-6 特別セッション 「高校生による研究発表」

近年、多くの学術集会で高校による研究発表が行われていることから、今回、本大会初の試みとして高校生による研究発表を実施した。評価点は4.0と高く、「良い取り組み」、「感動した」という肯定的な意見が多かったが、「職能団体の年次大会との関連が少ない」、「別の学会の方がなじむのではないか」という意見もあり、評価が分かれる結果となった。

1-7 ポスター発表

今大会では40件のポスター発表があり、評価点は3.8だった。今回はポスターの周囲に十分なスペースを確保したことで、「話が聞きやすかった」と評価していただいた。

1-8 私の意見・支部の意見

本プログラムも初めて設けた企画であり、実際の管理の現場で遭遇する問題点やその解決策などを発表していただき、話し合う場を作りたいという趣旨で行った。今回寄せられた意見は1件であり、最後のプログラムということもあって参加者は少なめであったが、「1人で管理している施設も多いので、相談できる場が欲しい。匿名でもできれば嬉しい」という好意的な意見も寄せられた。

1-9 相談コーナー

参加者が少なく回答率は低かった。「主任者が相談員を務めているので、相談しやすい」というコメントのほか、「相談コーナーの時間を2日間設定して欲しい」、「時間を長く設定して欲しい」など、時間の延長を望む声が複数あり、設定時間を工夫すれば利用者は増えると思われる。

1-10 機器展示、書籍コーナー

機器展示、書籍コーナーの評価点はそれぞれ3.5、3.1だった。前大会では書籍コーナーの回答率が低かったが、今大会では受付近くの場所に設置したところ回答率が大幅に上がり、多くの人に立ち寄っていただけたようである。

1-11 交流会

参加者は205名であった。アトラクションとして、地元のボランティアの方に琴を演奏していただいたほか、鎌倉に関するクイズ大会を行った。「食べ物、飲み物は十分だったが場所が狭かった」という指摘があった。

1-12 要旨集

要旨集に「各演者の発表スライドを掲載してほしい」という要望があった。同様の意見は毎年寄せられており、要旨集が資料として役立っていることがうかがわれる。著作権や版權の問題、未発表の研究データは載せにくいなどの事情があり、すべてのスライドを掲載するのは難しい面もあるが、今後の要旨集の作成に参考にできればと思う。

2 放射線安全取扱部会の活動について

2-1 興味のあるテーマ、今後の研修会で取り上げて欲しいテーマ

興味のあるテーマとして10%以上の人に選ばれたものを図3に示した。約半数の方が「教育訓練」と「緊急時の対策」を挙げ、それに次いで関心の高いテーマとしては「主任者の地位」、「放射線利用」、「安全点検」、「社会貢献」、「廃棄物処理」が続いた。また、これ以外の自由記載では、「法令」、「PET」、「様々な雇用状況に対応した従事者管理」など幅広いテーマが挙げられた。

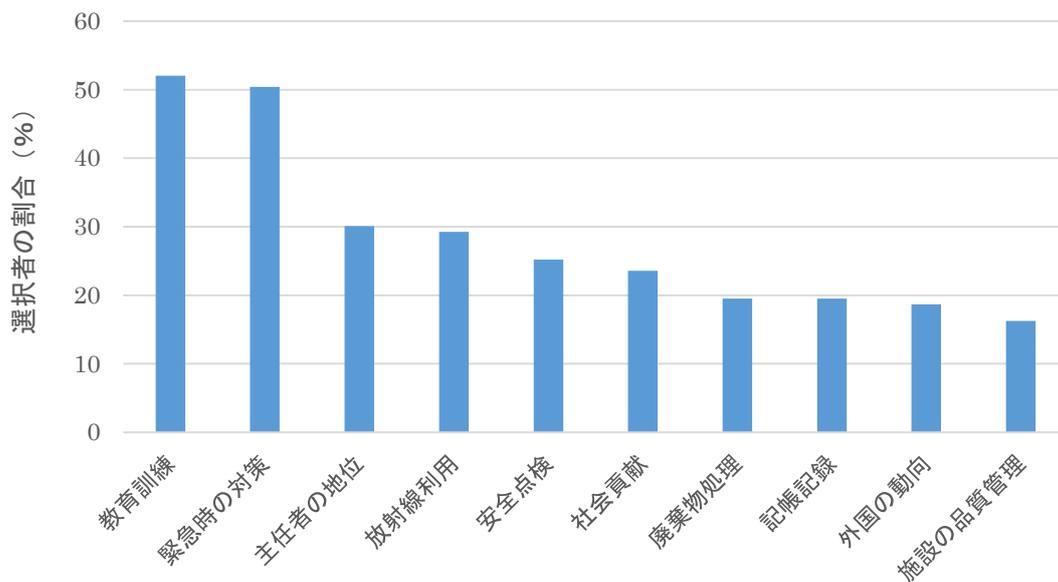


図3 興味のあるテーマ

2-2 教育訓練

開催頻度については適切という意見が9割を占めたが、「春期以外の開催時期を増やして欲しい」という意見も寄せられた。また、内容に関してはほとんどの方が適切と考えているが、「新規と継続の講義は分けて、それぞれの受講者にあった内容にした方が良い」、「再教育は同じ内容になると受講者の満足度が低下するので内容を工夫してほしい」、「各機関が実施している教育訓練内容を知りたい」などの要望もあった。

2-3 部会活動全般について

会員数の減少を心配する声が複数寄せられた。会員数の減少については、「部会名から『放射線取扱主任者』の名称が無くなったことで部会の目的が分かりにくくなったことが会員数減少の一因ではないか」、「もっと積極的に入会を呼びかけたり、発展するような施策をとるべき」という意見が寄せられた。

3 参加者について

3-1 年齢、性別

年齢構成は、20歳代2%、30歳代19%、40歳代24%、50歳代40%、60歳代以上25%であり、若手が少なく、50代以上が半数を占めていた(図4)。性別は男性が8割を占めた。

3-2 所有免状、身分について

複数回答があり、加算して集計した。第1種主任者が81%と大半を占め、それ以外は、第2種主任者6%、薬剤師5%、その他(第3種主任者、作業環境測定士等)7%であった。身分は、事業所長1%、管理職22%、一般職40%、教育研究職28%、医療従事者9%であった(図5)。また、日本アイソトープ協会会員は75%、放射線安全取扱部会会員は55%であった。

3-3 参加頻度

参加頻度は、毎年参加が60%、隔年が10%、時々が12%、初めてが18%であった(図6)。参加者の

中には、部会非会員（45%）、初めての参加者（18%）も多く、このような方々に今後も継続的に参加していただけるような、魅力のあるプログラムを企画することが重要である。

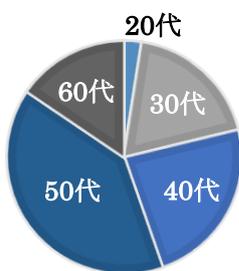


図4 年齢構成

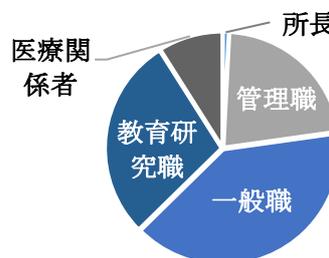


図5 身分

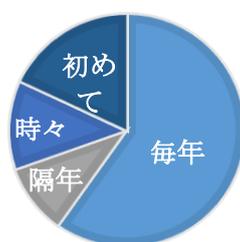


図6 参加頻度

4 参加者の所属事業所について

4-1 事業内容

医療機関が10%、教育機関が42%、研究機関が18%、民間企業が27%であった（図7）。

4-2 使用形態

複数回答は、加算した。許可使用が87%と大部分を占め、その後は届け出使用が6%、販売業が2%、廃棄業が1%であった。

4-3 施設

複数回答は、加算した。非密封が49%、密封が28%、放射線発生装置が14%、設計認証が5%、非破壊検査が1%であった（図8）。

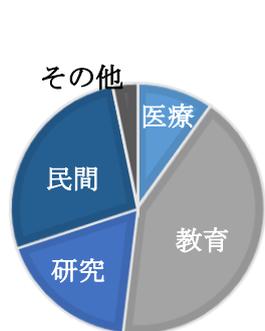


図7 事業内容

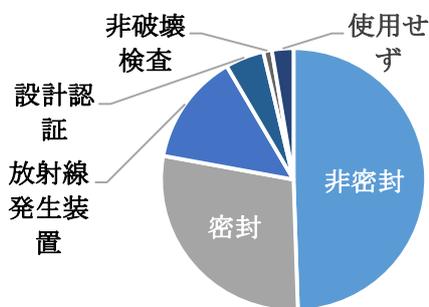


図8 施設の種類

4-4 所在地

北海道 2%, 東北 10%, 関東 41%, 近畿 17%, 中部 12%, 中国・四国 11%, 九州 7%であった (図 9)。

4-5 放射線業務従事者数

20 人以下が 23%, 20~100 人が 44%, 100~300 人が 24%, 300 人以上は 9%であった (図 10)。

4-6 選任主任者数

1 人が 43%, 2 人が 37%, 3 人が 9%, 4 人が 8%, 5 人が 3%であった (図 11)。

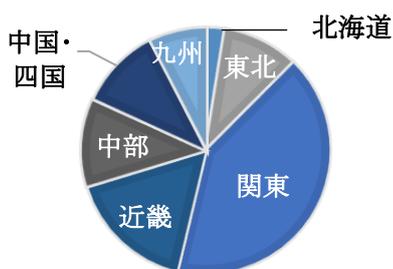


図 9 所在地

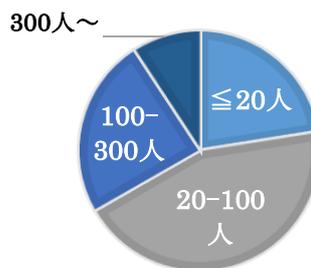


図 10 放射線業務従事者数

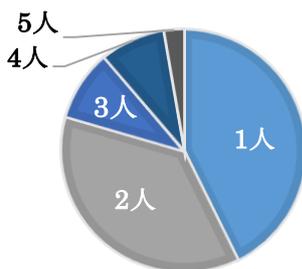


図 11 選任主任者数

おわりに

今回の年次大会は、古都鎌倉で開催いたしました。できるだけ多くの方にご参加いただきたいという観点からシンポジウムや特別講演を企画し、事前に非会員や学生などにも広く参加を呼びかける試みを行いました。また、鎌倉芸術館の設備が充実していたこと、歴史と自然の双方を堪能できる地として魅力的であることから鎌倉市での開催が決まりました。

大会運営に関しては一定の評価をいただき、実行委員一同、安堵しております。その一方で、いろいろと至らない点もご指摘いただきました。ここではすべてを紹介しきれませんでした。皆様の貴重なご意見は次回大会実行委員会に引き継ぎ、大会運営の改善に役立ててまいります。また、残念ながら参加者は昨年度よりも若干減少しました。放射線の医療への応用が拡大する一方で、教育・研究機関では利用が減少しており、会場でも会員の減少や今後の放射線施設の管理・運営を懸念する声が多く聞かれました。部会の持続的な発展のためには、今後の活動について一層の努力と工夫が必要であると感じました。

最後に、大会に参加していただいた皆様、アンケートにご協力いただいた皆様に、実行委員会より御礼申し上げます。

(泉 雅子)